

(第40回)

在宅医療の現場から

長崎在宅Dr.ネット…その1

長崎の在宅医療の動向について

医療法人 白髭内科医院院長

認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット事務局局長

白髭 豊



はじめに

本稿では、4回にわたり長崎在宅Dr.ネットおよびDr.ネットメンバーを含む多職種で作成した胃ろう管理の手引きについて紹介する。

第1回目の本稿では、Dr.ネット設立にいたるまでの長崎の地域医療の状況を紹介する。

全国の自宅死、在宅死

自宅死率、病院死亡率の年次推移を全国的に見ると、1951年以降自宅死率は減少、病院死亡率は増加の一途を辿ってきた(図1)。これには、1961年の国民皆保険制度の確立、1973年から83年までの老人医療費の無料化、2000年の介護保険法成立などのさまざまな要因が影響してきたものと思われる。

このような状況のなか、2005年時で自宅死率は12・2%で最低、病院死亡率は最高の82・4%となり、以後

2006年の在宅療養支援診療所の制度化もあり、2010年現在、自宅死率は12・6%と

微増し、病院死亡率は80・3%と減少した。

一方、広義の在宅死亡を捉える在宅死亡率(自宅十介護老人保健施設十老人ホームで死亡する割合)は、1995年より自宅死亡率と乖離し始め、2010年には17・4%と増加し、自宅死亡率より48%高くなった(図2)。自宅での死亡は、家族へかかる負担など介護力の問題があるため、将来的にそれほど増加するとは考えにくい。今後30年間の多死の時代に対応するためには、上述の介護老人保健施設、老人ホームのみならず、グループホームなどの多様な居住系施設での看取りを増やしていかなければならないであろう。

長崎県の地域医療の現状

長崎県の現状を鑑みると、2010年現在、自宅死率は9%で全国41位、在宅死率は14・4%で全国40位である(図3)。医療施設調査(厚生労働

省 2011年)によると、人口10万対一般診療所数(都道府県別)では長崎県は99・8と全国第3位であり、全国平均77・9を大きく上回っている。

また、人口10万対在宅療養支援診療所数は26・5で、全国平均の11・1を大きく上回って全国一位である(図4)。従来型または機能強化型在宅療養支援診療所の単独集計でみても同様で、長崎県はそれぞれ全国一位である。

一方、長崎県では人口10万対訪問看護ステーション数は3・67で、全国平均の4・01より低く全国32位である。そして、人口10万対の病院病床数は、全国平均1244・3に対し、長崎県は1925・6で全国第5位の過密県である(一般病床数だけで見ても、全国平均705・

長崎市のこれまでの状況

長崎市の人口10万対一般診療所数は130・8で、全国平均78・0を大きく上回り全国一位である(図5)。それにもかかわらず長崎市の自宅死率は、これまで長崎県内でも最も低い医療圏域に属していた(図6)。

一つの要因として、病床数の多いことが挙げられる。人口10万対の一般病床数は、20大都市・中核市の60都市で比較して、長崎市は1085・7で、全国平均705・6、県の平均879・3を大きく上回り、全国11位である(2010年医療施設調査)。

また、通院や在宅訪問診療が困難な坂道、階段が多い地理的要因もあり、数が多いものの医師同士の連携・相互扶助の議論がなく、かと言って在宅特化型の専門診療所もない状況で全国平均と同様に在宅死が減少

6に対し、長崎県は879・3で全国13位である)。

高齢者の訪問看護利用者数の多い都道府県では、自宅に死亡する者の割合が高い傾向があるが、長崎県ではむしろ訪問看護ステーション数は少なく、さらに、病床数が過密であるため、自宅より病院で亡くなる機会が多いと考えられる。全都道府県の人口10万対医師数と自宅死(あるいは在宅死)率の相関はないことが知られているが、長崎県でも医師の供給(人口10万対医師数、診療所数は十分だが、自宅死を増加させる要因になり得ていない)。

の1途を辿ってきたものと考えられる(図7)。

Dr.ネット設立の2003年頃より、病院の地域連携室も同時に活動を開始し始めた。すなわち、専門部署からMSW(メディカルソーシャルワーカー)や担当看護師が退院支援・調整を行うようになった時、Dr.ネットの存在が、在宅医の紹介斡旋先として大いに役立つことになったのである。

自宅死率は、2005年の73%まで全国と同様に減少していたが、2006年より増加に転じ、2010年には10・5%へと達した。最低の地域より上位4位への躍進である。増加している圏域は県内では他になく、Dr.ネット型の医師同士の連携が、大きく自宅死を増加させたと考えられる。

(つづく)



図2 在宅死率と自宅死率の経年変化

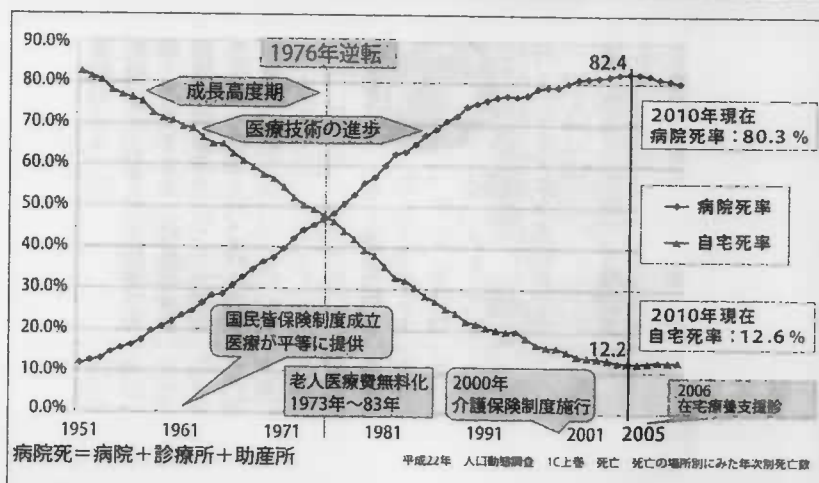


図1 病院死 自宅死の年次推移(2010年まで)

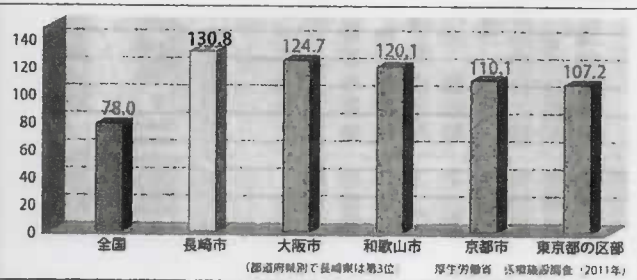


図5 人口10万対一般診療所数(20大都市・中核市)

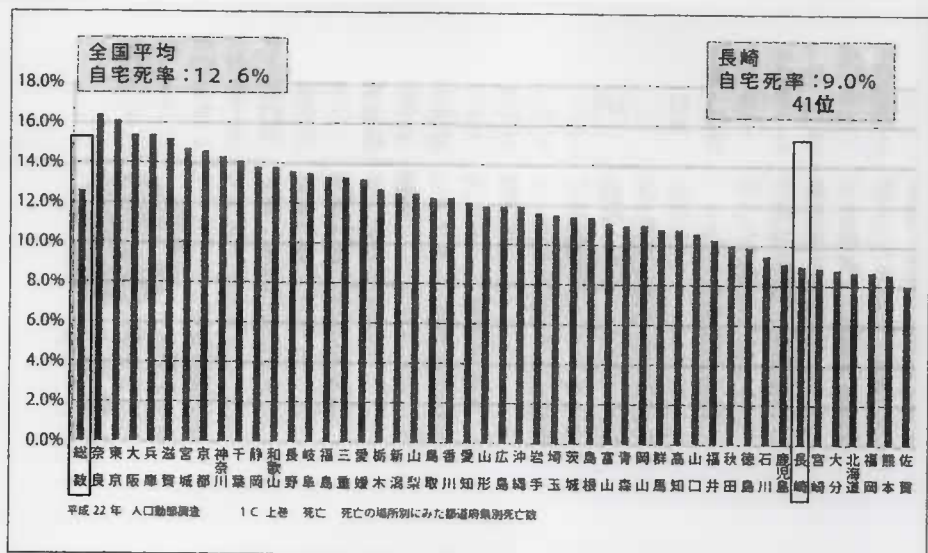


図3 都道府県別 自宅死率(2010年人口動態調査)

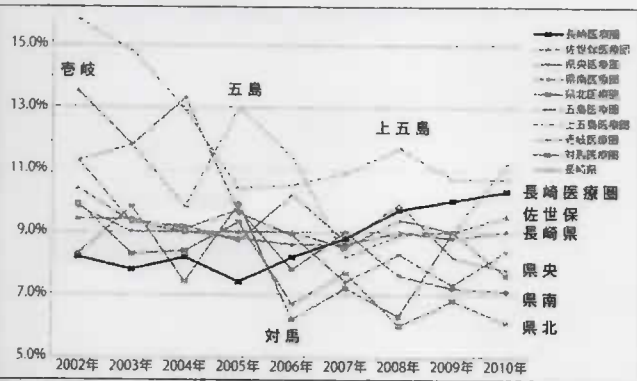


図6 自宅死率の経年変化(医療圏別)

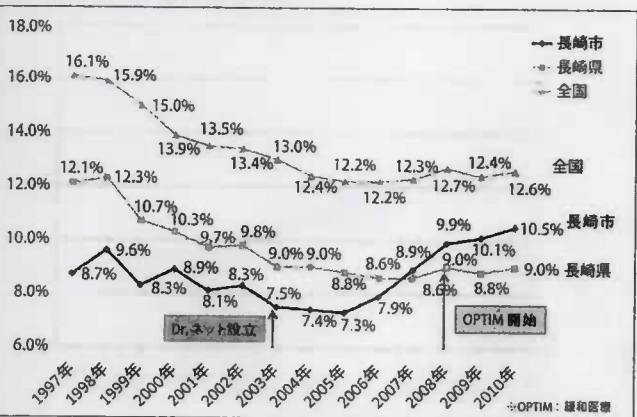


図7 自宅死率の経年変化

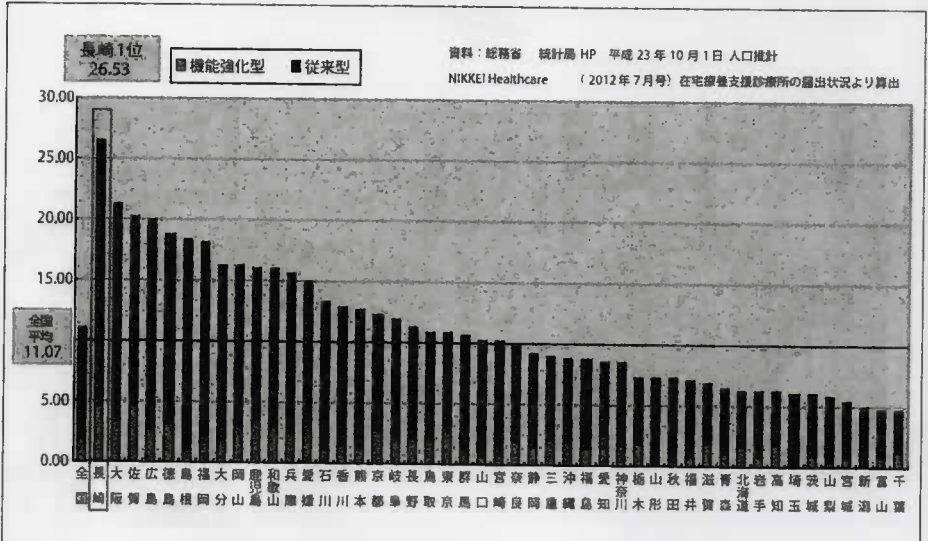


図4 在宅療養支援診療所数(人口10万対)比較 都道府県別